

おどろきモモの木クリニック・パートXIII



宮本秀明●宮本皮フ科（横浜市磯子区）

1. 長者番付廃止反対？

毎春発表されていた高額納税者（長者番付）の公表が、小生が開業した途端に中止になった。個人情報保護がその理由であるが、小生の名前が上位に記される予定だったのに実に残念である……なーんて一度言ってみたかったねー。今日もうちの診療所の待合室は相も変わらずガラーンとしている。そこで詠める歌……。

名にし負（お）ばいざこと問はん閑古鳥

今日（けふ）の利益は有りや無しかと

開業して2年経つが、10月半ばにもなると患者が来ない。電話帳広告にも少し金をかけたが効率悪く、うちの場合タウンページと言うよりdownページである。広告費も欠乏してきたので、昨年までの2色刷→単色、スペース→半分にしたら費用は1/3になったが、目立たなくなってしまった。バス内広告をしようとしたら「制作料は×万円」と吹っかけてきたので自分でパソコンで作って制作料をゼロにして掲出してもらった。実に惨めであるが、揺れるバスの中でイラストレーター作成の凝ったポスターなど誰が見るものか。自作デザインで充分である。さらに思い切って、最寄駅の改札を出て正面10mの壁にクリニックの看板を出したが、毎日駅を利用する人でさえ「見たこともない」と言う始末。……と言うような愚痴をいえば、A先生「駅看板は魔除けに過ぎず、患者は集まりません」。B先生「電信柱にする犬のしょんべんと同じで周囲を威嚇しているだけなんです」というお答え。なあんだ、そうだったのか。しかし「魔除け」のため年に×10万円も払ってるなんて、実に虚しい。

2. ある変遷

ボイン→デカパイ→Dカップ→巨乳→豊乳→爆裂乳→スイカップ→バズーカップ……と表現は様々に変わってきた。逆の意味はかつては「コイン」「ナイン」と言ったものだが、最近のタレントは「私、貧乳ですから」などと言っている。かと思うと今度は「山おんな、壁おんな」。んーん、次々によく考えるねー。

3. ある受験生の軌跡

高校3年生A（18歳、女）の日常生活は受験生とは到底思えないものだった。両親が仕事を終えて帰宅すると、勉強で疲れているはずなのに顔はつやつやして誰に似たのか芸能情報ばかり豊富である。学校を半日で終えて帰宅すると、食事済ませて「2時っちゃオ！」（このワイドショー番組で芸能情報をたっぷり仕込む）を見て昼寝である。これじゃどこにも入れないし、どうせ勉強しないので浪人したって無駄……と両親が悟るのに時間はかからなかった。しかし有難い事に最近ではAO（アドミッションオフィス）入試とかいう、筆記試験以外の選抜方法がある。幸い体は丈夫で授業は皆勤、陸上部はやり過ぎ位で、生徒会の役員でもあり、ボランティア部にも入っており、愛想だけはよい。そこで学校から推薦文もらって小論文（ワープロ清書は父が行った）書いて8月に面接受けたら通ったので、11月に入学金を払い込んだ。入学金と言ったって医学部でも薬学部でもないのでタカが知れている。

入学手続きの5ヵ月後には、6年間の学園生活を終え大学生になった。中学入学時はチアリーディング

グ部に入ったが3ヵ月で辞めた。大学のサークルはテニス部にしようかバドミントン部にしようかと散々気を持たせた後、柔道部にしたと言ひ、詳しく聞いてみると男女一緒に練習するという！ 変な押さえ込みばかり会得するのでは……と心配になっていた矢先（自宅通学ではないし）、久しぶりに一緒に夕食をとった直後に立ち上がったとき腹部が盛り上がっているのに気づいた。すわ、モー娘。の辻ちゃんか！ とドッキリしたが、オメデタではなく単に食べすぎだったようだ。

4. 少子化問題バトル……その1

少子化問題の解決策がいろいろ取り沙汰されているが、人口爆発で悩んでいる国からみれば、贅沢な悩みでもある。某国では、×10年前に某指導者の奇妙な農業政策で「大躍進」するどころか何千万人が餓死したが、ヨーロッパの小国なら数カ国滅亡している規模である。餓死させられた人間にとってはたまったものでないが、その後の人口爆発を少しは抑制したという点ではその指導者に勲功はあるかも知れぬ。

ある後輩が「いやあ、実は子供は4人います。なにぶん田舎なもので」と照れながら言っていたが、彼によると「田舎」だと娯楽が少ないので子供が多くなるんだそうである？ そういえば私の同級生には女の子ばかり5人いる人もいて驚いたが、別の同級生は子供が8人もいて、毎年呉れる年賀状の写真には入り切れないのか全員は写っていない。以上の3人とも確かに首都圏には住んでいない。ほう、それなら日本中を田舎にすれば子供は増えるかも知れないねー。

5. 絆創膏大臣

疑惑の渦中、顔をバンソーコーだらけにして記者会見に臨んだ政治家がいた。記者会見はしたもの説明の間もなく辞任したのでバンソーコーの理由は未だに藪の中である。

10数年前ノー〇ン喫茶というのが流行ったが、その頃マイナーではあるが「バンソーコー喫茶」というのもあったのを思い出した。太目の絆創膏を体の1箇所（敢えて詳述は避ける）に貼りつけてだけで出迎えてくれるんだそうだが、痒くなっちゃうんではないかと心配したものだ。残念ながら行く機会

の無いうちに消滅してしまった。あの頃は「Tバックたこ焼屋」なんてのもあったが、今でも営業しているのだろうか。

6. 少子化問題バトル……その2

出生率を上げたければ、婚外子を増やす手もある。愛人の子（庶子）に本妻の子（嫡出子）と同等の権利を与えれば、肩身の狭い思いが減るだろう。北欧の某国はこれに似た政策をとっている。「人工授精補助」「体外授精補助」だけでなく、艶福家には「妾補助」を出すのも妙案である。……となれば小生なんぞは「補助太り」かも。しかしこの法案はどうも国会を通りそうも無い。

7. 東京××大学

皆が東京にある大学だと思い、都会に慣れて入学したところ、キャンパスは隣県の千葉・埼玉・神奈川であったということはよくある事である。しかしその程度で驚いてはいけない。「東京××大学」は入学するとキャンパスは北海道の長万部^{おしゃまんべ}であるし、また別の「東京△△大学」はオホーツクキャンパスという名で北海道網走市にもある。

8. パニクリ、パニクラ

書店に行くと所謂パニック本が数多^{あまた}並んでいる。「大都市は地震で壊滅」のようなタイトルである。確かに毎年日本の何処かで大地震が起きており、たまたま神戸のような大都市に起きて死傷者が大勢出たり、原発の所在地に起きれば被害が無くとも大騒ぎになる。関東大震災の震央は横浜だと言われているのでいつわが身に降りかかってきても不思議ではないが、日本のどこに住めば地震に遭わずに済むのか書いてある本は見当たらない。

パニック本は天災ばかりが主題ではない。「年金崩壊」「日本国は破産する」「銀行封鎖」「ハイパーインフレ来る」などのタイトルが並ぶが、少しずつ住宅ローンを返し続けることで何とか安堵感を抱いている小市民にはいずれも刺激が強すぎるフレーズである。1冊目の本を紐解いてみれば「預金通帳は単に数字が並んでいるだけの紙切れに過ぎない。金地金を買って保管しなさい。保管先は銀行の貸し金庫はダメ。ソ連の崩壊時やアルゼンチンの国家破産時には銀行の貸し金庫の中身は国家に没収された。

簡単に盗まれないように900kg以上の重量の金庫を買ってボルトで床に固定しなさい」?? そんなデカイ金庫を購入するだけで財産が無くなりそうだし、1トン近くのを木造の我が家にボルトで固定したら床が抜けてしまうわい。2冊目の本は「ハイパーインフレに備えて外貨を買いなさい。米ドル、ユーロで4割ずつ、他の外貨を2割持ちなさい」とある。なるほどと思いつつ3冊目を見ると「米ドルは暴落する。あと1年半で下落し始め120円→100円→80円台となる」とある。なるほど、22年前は260円だったのがその後3年足らずで半分以下になりその後回復しないので、その程度の暴落も有り得るかも。んー

ん、それならユーロに換えればよいのかと思いきや4冊目には「ユーロは寄せ集めの国の通貨なので10年後20年後に存在しているか怪しいものだ」とある。呆れつつ5冊目を開くと「わが国の収支決算は家庭に例えれば年収580万円しかないのに毎年支出830万円の生活を続けて累積の借金が8,300万円に上る家である。いずれソ連のように破産する」。じゃあ一体どうしたらいいんだと悩みつつ6冊目を開くと「日本国におさらばしてニュージーランドに移住しましょう」なんて書いてある。たくー、冗談じゃないよ。それなら「こりん星」にでも移住した方がましかも。ゆうこりんが待ってるかも知れないし〜。

御殿場だより

*

中嶋 弘

4. 富士山宝永大爆発300周年

富士の周辺には富士山の爆発を見た村民が大目を開けて驚いたから「大目村」とか、どうしべいと途方に暮れたから「道志村」など、かなりいい加減な命名による村もありますが、伊勢神宮の台所を賄う神宮領であったことから「御厨地方」（御殿場市、小山町、裾野市の一部）とか鷹狩りが好きだった徳川家康がこの地に御殿を造らせたから「御殿場」のようになりに由緒正しきものもあります。

その御厨地方、特に御殿場からは今日も澄み切った真白き雄大な富士山を望むことができます。ここに鷹でも舞っていれば来春はきつとめでたい年になるのですが、舞い降りているのが自衛隊の落下傘ではどうでしょうか。

ところで、今年（2007年）は富士山宝永大爆発300周年と言うことで学者や行政やマスコミの方々が師走の須走あたりを走り回っていましたが、先日無事300周年を迎えることができ、先ずはひと安心です。

富士山宝永噴火は元禄関東地震（1703.12.31）と宝永東海地震（1707.10.28）の巨大地震が引き金となり発生したとのことですが、紙数の都合で地震の話は割愛します。富士山宝永大爆発は土屋家絵図によると「1707年11月23日に地震があり、雷のよう

に鳴って、この絵のように焼き出た。12月8日まで16日間にわたって焼けた」と記されています（土屋家絵図は転載許可が得られなくなり、急遽2008年1月1日、御殿場かいせい病院から撮影の富士山に入れ替えました。宝永山およびその噴火口は富士山中腹、中央に見られます。なお、土屋家絵図にご興味のある方は後述の文献②あるいは⑤をご参照願います）。

絵図は外にも御殿場市・滝口文夫氏所蔵のもの、伊東志摩守日記・富士山噴火記録絵図などが有名ですが、葛飾北斎の宝永山出現のように噴火する山ではなく爆発でぶっ飛ぶ庶民の様子が描かれたユニークなものもあります。文書記録としては「土屋伊太夫噴火事情書」や「伊東志摩守日記」が詳細な記述で秀逸ですが、「新井白石日記」や「折りたく柴の記」なども参考になります。これら多くの記録などから倒壊家屋は20万160軒、死者は5,233人と報告されていますが、犠牲者は30万人との推計もあります（松尾美恵子：小山町史・第七巻）。また多くの科学者の研究から降った火山灰の総量は8.5万立方メートル、約10億トンに達するとの推測もあります。最も多くの火山灰に見舞われた御厨地方の須走村・大御神村（現在小山町）では3～1.5mの降砂があり全ては砂に埋まりました。昭和に至るも除砂できな

かった大御神村の入会地区には、現在富士スピードウェイや富士霊園があります。私の両親の墓地は富士霊園にありますが、周辺を散策すると一歩進むごとに砂のきしみがあり、砂層の厚さを実感できます。そして、拙宅のある足柄平野は富士から東方に約30km離れていますが50～30cmの降灰があり、少なくとも農作物は全滅しました。そしてその後



御殿場かいせい病院 病室から撮影（2008年1月1日）

続発した酒匂川などの氾濫で農地や家屋の多くは流失し、火山泥による川原と化しました。さらに約100km離れた江戸でも約2cmの降灰があり、皆咳に苦しんだと記されています。咳に関しては「これやこの行くも帰るも風吹いてしるもしらぬもみなせきにけり」のような百人一首もじりの狂歌もあります。

時の幕府や小田原藩は農民に対してはきわめて冷酷で、多少の御救米と砂除金以外は自力除砂の方針を押し貫きました。農民らは粘り強い火山灰除去や天地返しに汗を流し、除々に農地を回復しましたが、相次ぐ酒匂川などの堤防決壊で回復農地もすぐに押し流される始末でした。困り果てた幕府は川崎宿の名主だった田中兵庫（丘隅）に文命堤（現在山北町）の復旧を命じ、その後の修復などは蓑笠之介に行わせ、どうにか水害から逃れることができました。なお堤の長さは1,725mですが工事に取にかかったのが1725年とは何たる偶然でしょうか。その後も農地の復旧作業は続けられましたが、40年後でも年貢米は噴火前の1/3にしか過ぎないとの記録があり、当時の農民の困窮状態が推察できます。

今の足柄平野は人家や工場や道路などの建設が盛んで農作物も豊富ですが、先人が苦勞して作った農地は減少する一方です。足柄平野をいつも見守ってくれている富士山は、何を考え300年間ひたすら沈

黙を守っているのでしょうか。富士山は有史以来十数回の噴火の記録がありますが、300年間噴火しなかったのは1回のみです。天災は忘れた頃にやってくると言いますが、現在の科学では噴火を防ぐことはできません。万一噴火したら、特に全てに張り巡らされた電子機器システムなどが崩壊したら、予測不能の被害が出ること間違いありません。その時には案外300年前の英知が役に立つかも知れません。

今回は噴火の話ですが、富士には湧き水をはじめとする計り知れない豊かな自然の恵みがあります。私はこれからも何があっても好きな富士山のもとで暮らしたいと思っています。私の愛する不二の山の神に申し上げます。いつも感謝の気持ちを忘れないようにしますのでくれぐれも爆発のような恐ろしいことだけは起こされませぬように。

[主な参考書] ①松尾美恵子：小山町史・第七巻・第四章、小山町、1998 ②小山真人編集：富士を知る、集英社、2002 ③永原慶二：富士山宝永爆発、集英社新書、2004 ④富士山検定協会編著：富士山検定公式テキスト、スキージャーナル株式会社、2007 ⑤中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門調査会：1707 富士山宝永噴火報告書、内閣府、2006